

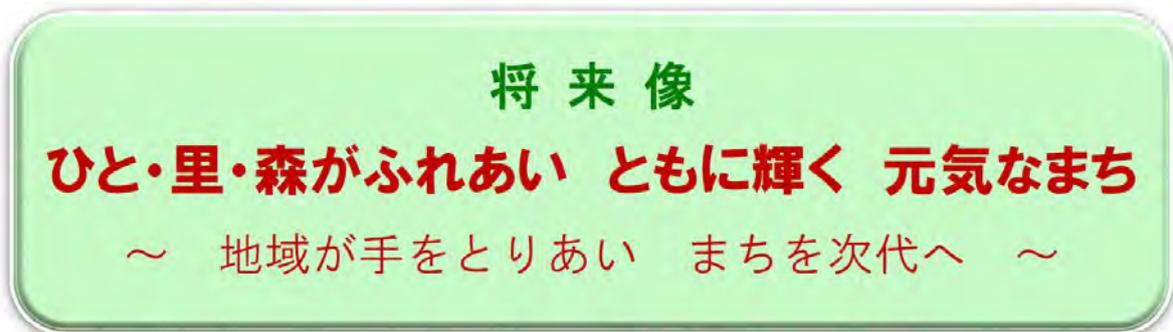
第2章 目指すべき都市像

2-1 都市づくりの理念・目標

(1) 都市づくりの理念

久万高原町の最上位計画である「第2次久万高原町総合計画」では、久万高原町の将来像として以下のとおり定めています。

【久万高原町の将来像（第2次久万高原町総合計画より）】



本町は、豊かで清涼な自然環境に恵まれた穏やかなまちであると同時に、人口減少によりそれが脅かされている状況でもあります。したがって、本町の今後のまちづくりを考えていく上では、「ひと（本町住民や町外住民）」が定着し、「里（地域社会）」が安定し、それにより「森（自然）」を守ることが重要であり、それは、これまでもこれからも変わりません。このことから、第2次総合計画に掲げる将来像において、第1次総合計画と同じキーワードである「ひと・里・森」を引き続き使うこととします。

しかし、第1次計画策定時よりも本町の人口や社会・経済は厳しくなっており、「ひと・里・森」を、次代に誇りを持って引き継いでいくという重要な責務は、地域同士・住民同士が連携してまちづくりに参画することなくしては、もはや果たしえられません。行政・地域・住民が当事者意識を持って連携しあいながら、現状に見合う地域の運営について考え実践していく必要があるのです。

このことから、これからの10年間は人口減少・少子高齢化の更なる深刻化、社会経済の状況などから財政的に厳しい時代を迎えることとなりますが、そうした時代を乗り越える新たな自治体制を形づくっていきたいという思いを込め、将来像を「ひと・里・森がふれあい ともに輝く 元気なまち ～ 地域が手を取りあい まちを次代へ～」とします。

久万高原町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画においても、上位計画である「第2次久万高原町総合計画」に掲げる将来像の実現を目指し、今後の都市づくりを推進するため、「ひと・里・森がふれあい ともに輝く 元気なまち ～ 地域が手を取りあい まちを次代へ～」を都市づくりの理念として設定します。

(2) 都市づくりの目標

都市づくりの理念や都市づくりの主要課題を踏まえ、都市づくりの目標を以下のとおり設定します。

目標1 ネットワーク化された拠点の形成による歩いて暮らせるまちづくり

- 一定程度の人口密度が確保された区域に行政・介護福祉・子育て・商業・医療・教育などの都市機能を集約した拠点を形成することにより、日常生活に必要なサービスを身近に享受できる、歩いて暮らせるまちづくりを目指します。
- 町内の主な公共交通であるバス路線を維持・活用する観点から、交通結節点であるバス停周辺に拠点を設定するとともに、多様な主体と連携し、地域の実情等に応じた移動手段の導入について検討を行うなど、拠点間ネットワークの形成を推進します。

■ ネットワーク化された拠点の形成イメージ



※各集落から生活拠点までは地域運営協議会等による支援を検討

【対応する主要課題】

- ・ 持続可能な生活圏域の確保（課題1）
- ・ 地域の実情に応じた移動手段の維持・確保（課題2）
- ・ 多様な主体との連携体制の強化（課題7）

目標2 次世代の担い手が楽しく暮らせるまちづくり

- 町外へ出た若年層でも再び帰ってきたいと思えるような魅力的なまちづくりを推進するため、地域に必要な機能の充実によるまちの賑わい創出を図るとともに、林業などの町を代表する産業基盤の担い手不足を解消するため、誘導施策と連動した産業の継承に向けた取組を推進します。
- ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代の働き方として、多様な働き方への期待が高まっている傾向を踏まえつつ、豊かな自然環境に囲まれている本町の特性や増加が懸念されている空き家・空き地等の低未利用地を活用し、テレワーク等の「新しい働き方」に対応したまちづくりを推進します。



お試し住宅（父二峰住宅）



お試し住宅（面河洪草住宅）

【対応する主要課題】

- ・若年層の流出抑制・確保（課題3）
- ・地域資源の保全・活用（課題6）
- ・多様な主体との連携体制の強化（課題7）

目標3 「高原ブランド」を活かした交流を育むまちづくり

- 高原ブランド（トマト・ピーマンなどの高原野菜、久万高原天体観測館、面河山岳博物館などの文化施設、道の駅 天空の郷さんさん、自然景勝地などの「高原」イメージを引き立てる、本町独自の魅力ある地域資源）を活かした交流により、地域振興や町民のまちへの誇りを醸成します。
- 石鎚山や面河溪、四国カルスト等の町を代表する自然景勝地のほか、キャンプ場等の自然環境を活かした多様なレクリ



道の駅 天空の郷さんさん

エーション活動ができる場の維持・充実を図るとともに、県都松山市から近いという地理的条件を活かし、定住人口のみならず、関係人口の増加に向けて戦略的に取り組み、地域活力の向上を図ります。

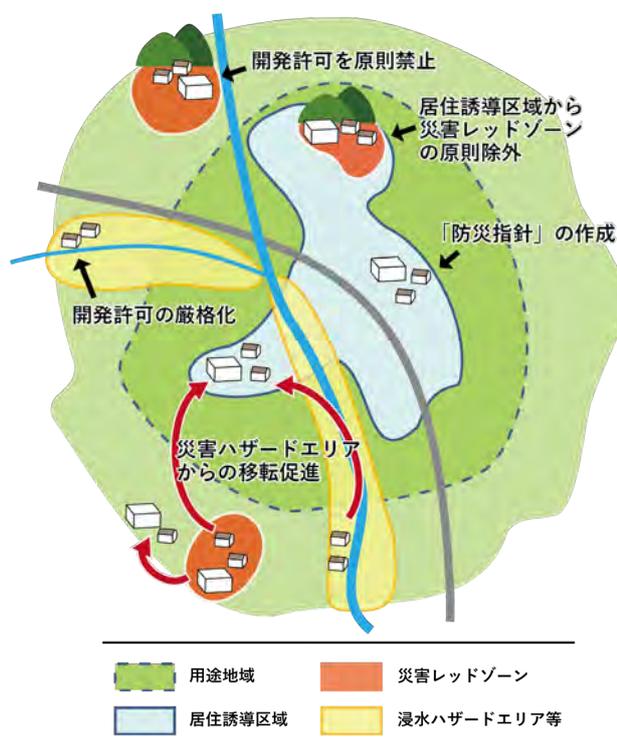
【対応する主要課題】

- ・若年層の流出抑制・確保（課題3）
- ・地域資源の保全・活用（課題6）
- ・多様な主体との連携体制の強化（課題7）

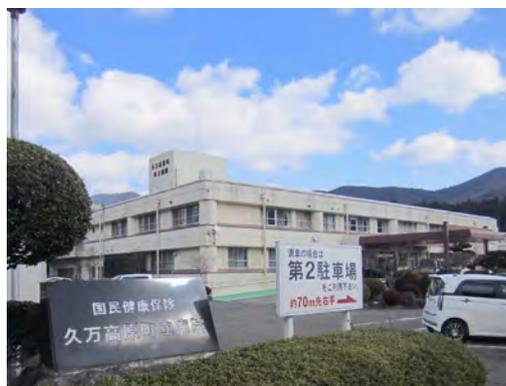
目標4 安全・安心に住み続けられるまちづくり

- 町民がいつまでも安全・安心に暮らせるまちづくりを実現するため、今後、発生するおそれのある災害を踏まえた誘導区域の設定を行うとともに、住宅の耐震化・不燃化の促進や空き家等対策を推進するなど、ハード・ソフト施策による総合的な防災・減災対策を推進します。
- 老朽化が進行する公共施設等については、財政制約下での効率的なストック活用や長寿命化に取り組むとともに、建築後40年が経過する町立病院の建替えを契機として、誰もが安心して生活できる地域医療の維持・充実を図るなど、都市機能の維持・強化を図ります。

■ 防災・減災対策の推進イメージ



資料：頻発・激甚化する自然災害に対応した「安全なまちづくり」（国交省資料）を基に作成



久万高原町立病院

【対応する主要課題】

- ・ 公共施設等の老朽化への対応（課題4）
- ・ 増大する災害リスクへの対応（課題5）
- ・ 多様な主体との連携体制の強化（課題7）

2-2 将来フレーム

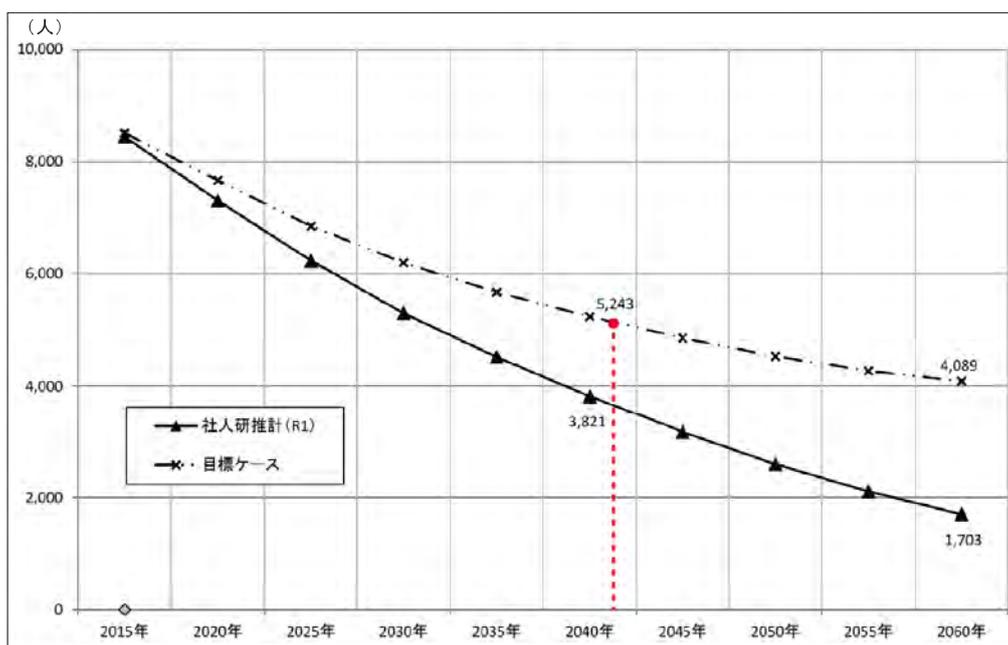
(1) 将来人口

将来人口については、久万高原町における目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示している「第2期久万高原町人口ビジョン」に基づき設定します。

【将来人口】

2041年（令和23年）の人口：約5,000人

■ 目標ケースと社人研推計の比較



資料：第2期久万高原町人口ビジョン

2-3 将来都市構造

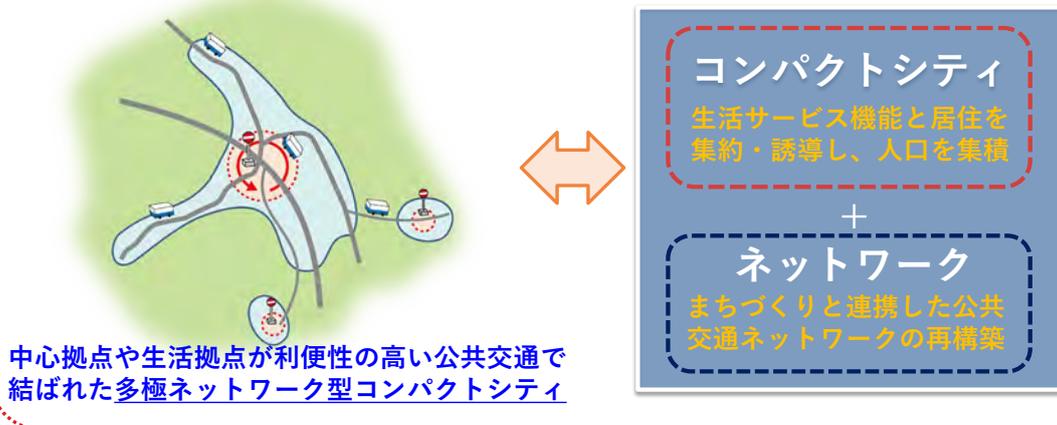
(1) 将来都市構造の考え方

国では都市が抱える課題に対応するため『コンパクト・プラス・ネットワーク』の都市構造による都市づくりを推進しています。

久万高原町においても、『コンパクト・プラス・ネットワーク』による将来都市構造を目指していきます。

■ 『コンパクト・プラス・ネットワーク』とは

▶ 居住や都市機能の集積による「密度の経済」を通じて、「住民の生活利便性の維持・向上」や「行政サービスの効率化等による行政コストの削減」などを実現



(2) 将来都市構造の設定

将来都市構造については、地域特性を踏まえた居住及び都市機能の誘導を図る「拠点」、拠点や集落を結ぶ「軸」、土地利用の基本的な方向を定める「ゾーン」で構成し、各地域が活力を持つ、持続可能な生活圏域の構築を目指します。

■ 将来都市構造の設定（左：拠点、中：軸、右：ゾーン）



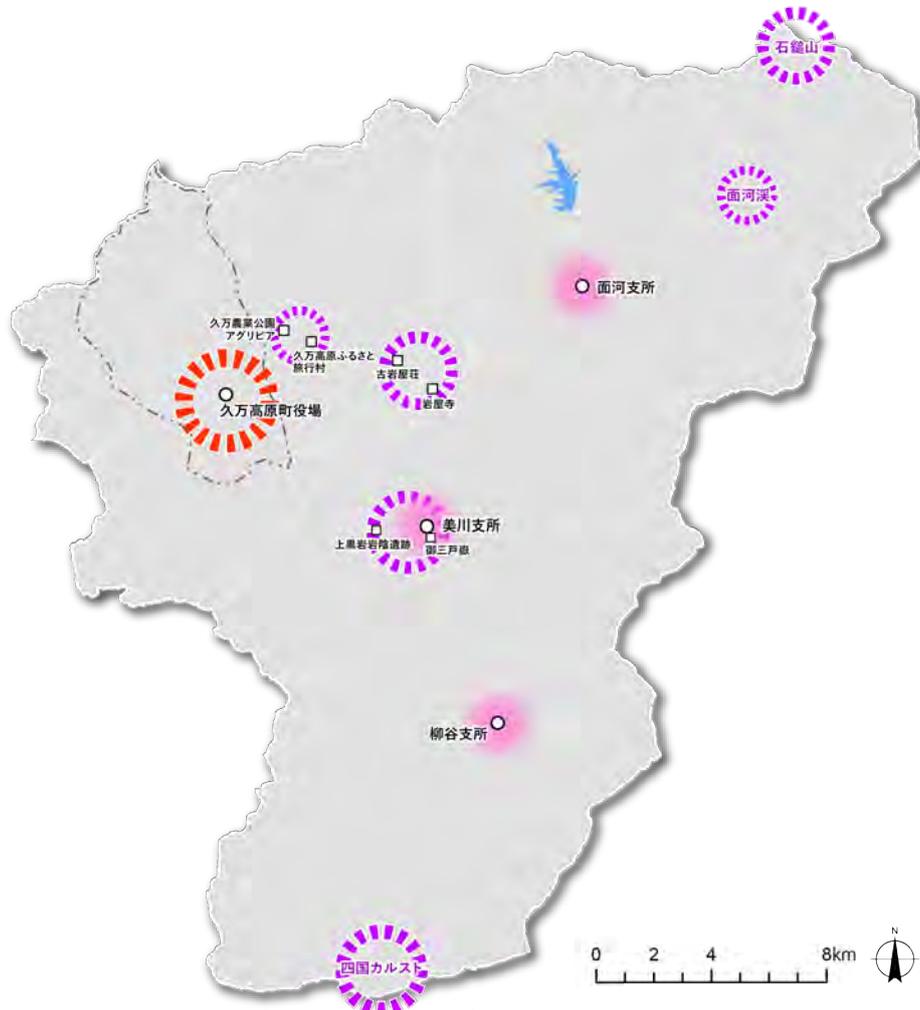
① 拠点

久万高原町の中心部に中心拠点を配置するとともに、旧町単位（支所周辺）を中心とした生活拠点や久万高原町が持つ多様な地域資源を活用した自然・文化交流拠点を配置します。

■ 拠点の内容

名称	凡例	指定位置等	内容等
中心拠点		・久万高原町役場周辺	町全域の暮らしに必要な医療、介護福祉、商業、子育て支援、教育文化、金融、交流、産業・業務機能等の高次都市機能の充実とまちなか居住の推進により、久万高原町の中心部として利便性が高く、にぎわいの創出を図るエリア
生活拠点		・面河支所周辺 ・美川支所周辺 ・柳谷支所周辺	日常生活圏を対象とした各地域における拠点として、中心拠点との連携を図りつつ、日常生活に必要なサービス施設等の維持・確保を図り、地域コミュニティの維持を図るエリア
自然・文化交流拠点		・四国カルスト周辺 ・石鎚山周辺 ・面河溪周辺 等	久万高原町が保有する豊かな自然環境や歴史・文化的資源などの多様な地域資源を活用し、町内外の人と自然と歴史が調和し、多世代による交流活動を牽引するエリア

■ 拠点の設定



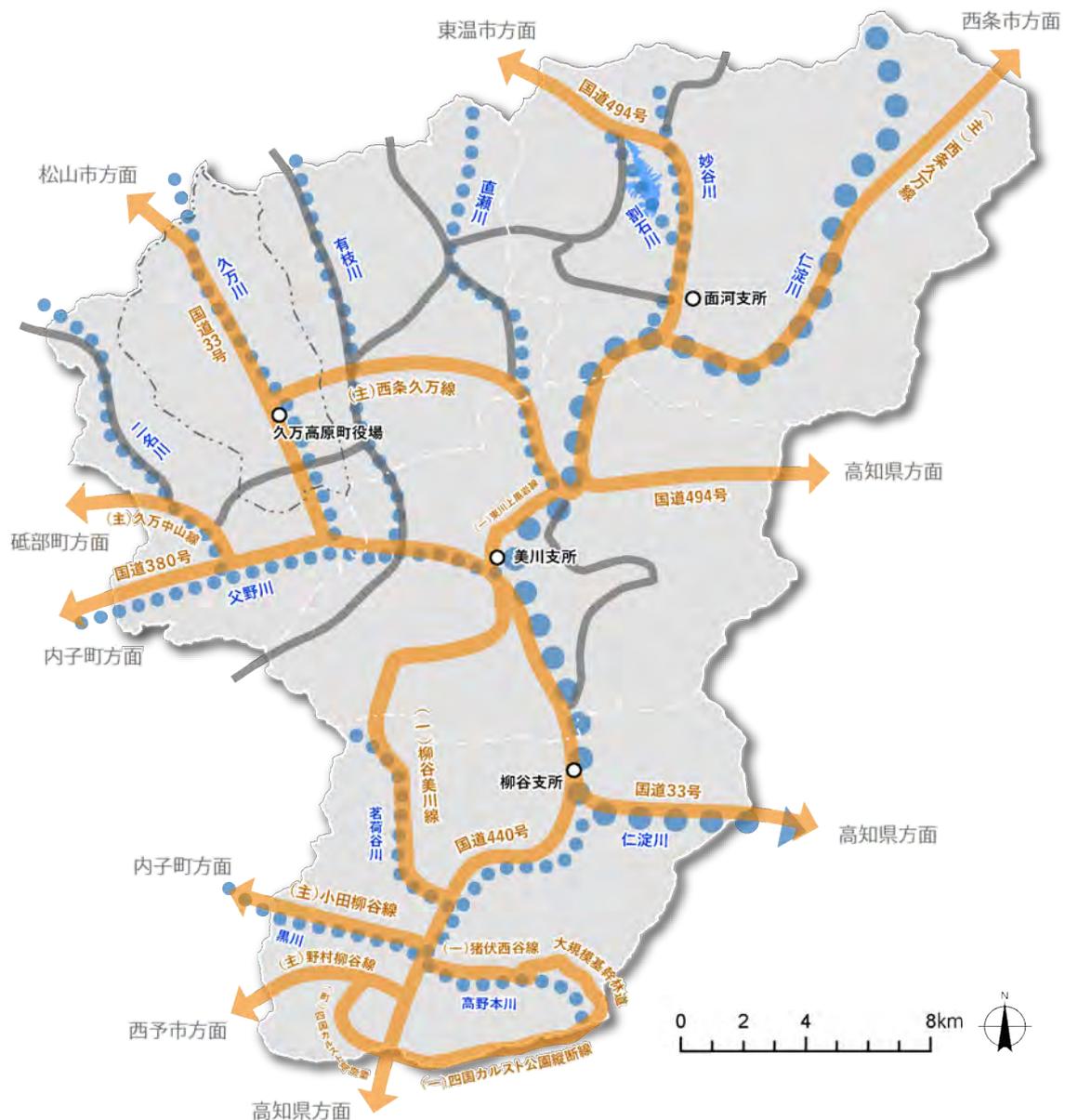
② 軸

交通軸として基幹道路による広域交通軸や地域交通軸を位置付けるとともに、主要な河川を自然環境軸として位置付けます。

■ 軸の内容

名称	凡例	指定位置等	内容等
広域連携軸		・ 国道 ・ 主要地方道 等	主に広域的な連携・相互補完を担う幹線道路
地域連携軸		・ 一般県道	主に町内の拠点と周辺地域間の相互補完・機能分担を支援・連携する道路
自然環境軸		・ 主要河川	水と緑のネットワークを形成し、生活に潤いを与え、良好な自然環境と景観の保全を図る軸

■ 軸の設定



③ ゾーン

土地利用の基本的な考え方として、市街地ゾーン、農業集落ゾーン、森林ゾーンを位置付けます。

■ ゾーンの内容

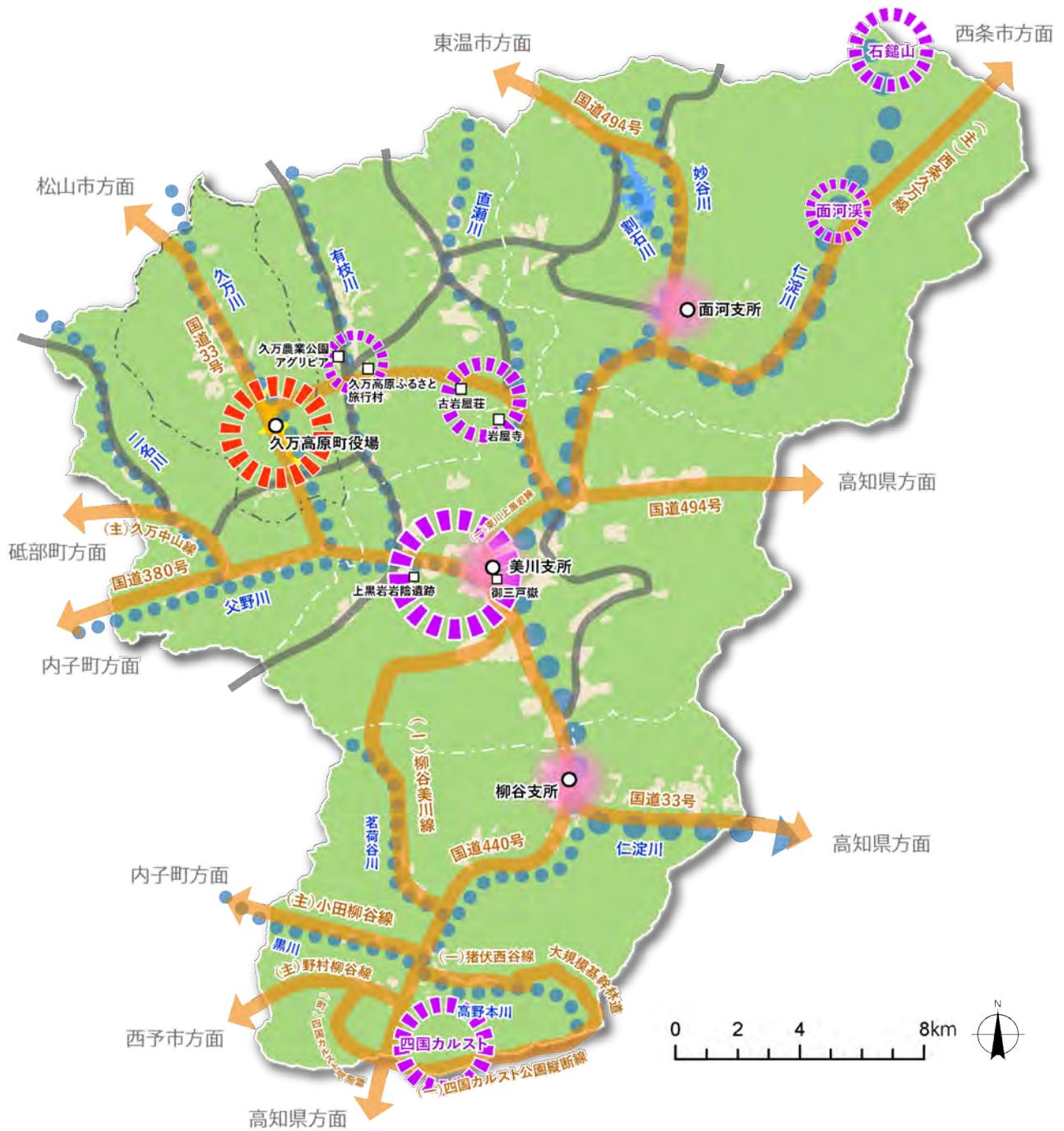
名称	凡例	指定位置等	内容等
市街地ゾーン		用途地域	環境負荷の低減や都市の魅力向上の観点等から、コンパクトな市街地の形成と快適な住環境の創出を図るゾーン
農業集落ゾーン		農地・集落地等	農業の振興や優良農地の保全を図るとともに、既存集落地における生活環境の維持に努め、田園環境と生活の共生を図るゾーン
森林ゾーン		山地・丘陵地等	都市生活に潤いを与えてくれる大切な自然環境として、適切な保全・活用を図るゾーン

■ ゾーンの設定



以上の拠点、軸、ゾーンを重ね合わせ、久万高原町の将来都市構造を設定します。

■ 将来都市構造図



拠点	軸	ゾーン		
中心拠点	広域連携軸	市街地ゾーン	役場・支所	行政界
生活拠点	地域連携軸	農業集落ゾーン	主要な施設等	地域界
自然・文化交流拠点	自然環境軸	森林ゾーン	水辺地	都市計画区域界